

季刊
2012
夏



この夏、新城「田ノ島」+東京「小金井」・浜松・豊橋にアーティストが集結する。

現代美術展 ART田ノ島39

明日への美術へ「ART田ノ島39」によせて

浜松芸術音楽支援機構理事／豊橋市美術館館長

金原宏行

今日の美術状況の中で大きな動向として、アーティストは発表の場を、閉ざされた空間・場所から開かれたスペースへという、展示場所の拡大、変更という、大きな流れがあるといえよう。これは、オフ・ギャラリー（美術館離れ）という世界的な傾向でもある。

今年のあいちトリエンナーレ地域展開事業である「現代美術inとよはし」（一月十七日～二月九日）においても街となる環境や自然などに働きかけるインスタレーションの作品が好評で、市民を魅了している。

こうしたことを背景に、常にポジティブな造形作家たちが中心となつて、東京、浜松・豊橋の俊秀十六人が、この夏、川と山懷に抱かれた里山、新城市湯谷温泉で豊かな自然とコラボレーションを行う。

「藝術は爆発である」（岡本太郎）というよりも「藝術は生きる力を与える」と考えている私は、このプログラムによって、多彩な造形が自然のなかでどのような表情を見せるか、大いに期待している。

現代美術展 ART田ノ島39

愛知県新城市湯谷温泉近郊の河岸[田ノ島39番地]。そこに沿って流れる宇連川の川底は岩を敷き詰めたように見え、板敷川と呼ばれる。徒歩5分の下流には日本百名湯に選ばれた湯谷温泉があり、天竜奥三河国定公園の一面を占める、豊かな自然の中に、東京[小金井]・双ギャラリー、浜松・アートフォルム田町サロン、豊橋・ギャラリー サンセリテ、で発表するアーティストに、遠州・三河を活動の拠点とするアーティストが加わり、自然と現代美術の新たな関係を提示する。

会期 2012年8月4日(土)～12日(日)

月～金／午前11時～午後5時 土・日／午前11時～午後6時

オープニングパーティ 8月4日(土) 午後1時より

サウンドパフォーマンス 多田正美

会場 田ノ島39番地

愛知県新城市豊岡字田ノ島 39 番地

同時期開催

浜松・アートフォルム 田町サロン

豊橋・ギャラリー サンセリテ

東京 [小金井]・双ギャラリー

二〇一二年の一月一七日から二月一九日までの約一ヶ月間、豊橋の街中で現代アートのイベント「現代美術展 in とよはし」を開催した。これは、あいちトリエンナーレ地域展開事業として愛知県が企画したあいちアートプログラムの中のメイン事業である。ボードレスでクリエイティブな活動を展開する一〇組一一名の作家を登用したが、見慣れた景色や建物も、現代アートとコラボレーションすることで相乗的な効果を挙げ、豊橋ならではの

空間づくりができ、大きな反響を呼んだ。その核となる豊橋市美術館博物館の展示を味岡伸太郎にお願いした。館を貫く形で配置した豊橋公園の歴史を刻んだ五八個の石によるインスタレーションは、特に話題を集めた。報告書を兼ねたカタログに掲載した講評の中で、私は「日常的で平凡な都市空間に非日常的で非凡な要素を一つ投げ入れると大きく動き出すという考え方がある。最初に勇気を奮って石を

投げなければ澱んだ池の水は動かない。どのような波紋が起きるのか。もしかしたらアートが町を変えるのかもしれない。」と記した。今回開催される「ART 田ノ島39」は、そんな動き出した波紋の一つではないかと、驚きをもって受け止めている。奥三河の美しい自然の中で、個性的な現代アートが果たしてどのような展開をみせるのか…。今から楽しみである。

現代アートの波紋が広がる 大野俊治

豊橋市美術館博物館主任学芸員／「現代美術展 in とよはし」キュレーター



東京[小金井]展

双ギャラリー

会期 2012年8月25日(土)～9月23日(日)

金・土・日曜日のみオープン

金・土／午後1時～午後7時 日／午前11時～午後5時

東京都小金井市緑町 2-14-35

TEL: 042-382-5338 FAX: 042-382-5589

E-mail: soh-g@soh-gallery.com

http://www.soh-gallery.com

●JR中央線東小金井下車。徒歩15分。

北口の階段を降り、東大通りの広い道を真直ぐに、法政大学が過ぎたら細い道を左折、角に道祖神のある道を斜めに入ると看板が見えます。

●東小金井からコミュニティバス [CoCoバス]

「法政大学」下車、徒歩約3分。

●三鷹或いは武蔵小金井方面の方は、

「武蔵小金井行き」「三鷹行き」バス

五日市街道沿い「関野橋」下車5分。

浜松展

アートフォルム 田町サロン

会期 2012年8月8日(水)～31日(金)

午前10時～午後6時

日曜休廊 夏期休廊8月11-15日

静岡県浜松市中区田町 326-28

TEL: 053-455-8001 FAX: 053-455-0820

E-mail: tamachi@08-art.com

http://08-art.com

●JR 浜松駅より徒歩6分。

豊橋展

ギャラリー サンセリテ

会期 2012年8月5日(日)～31日(金)

午前11時～午後6時

水曜休廊 夏期休廊8月13-19日

愛知県豊橋市向山大池町 18-11

TEL: 0532-53-5651 FAX: 0532-52-6608

E-mail: art@sincerite.info

http://www.sincerite.info

●JR・名鉄豊橋駅から豊鉄バス4番乗り場で10分。

「台町」下車、徒歩1分。

主催

浜松芸術音楽支援機構

共催

アートフォルム田町サロン

ギャラリー サンセリテ

双ギャラリー

春夏秋冬叢書

アドバイザー

金原宏行

(浜松芸術音楽支援機構理事

豊橋市美術館館長)

大野俊治

(豊橋市美術館主任学芸員)

後援

豊橋市・新城市・浜松市

湯谷温泉発展会・平野美術館

問い合わせ

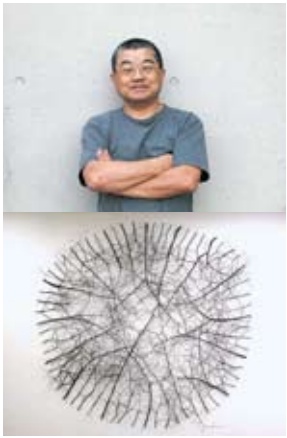
春夏秋冬叢書

TEL: 0532-33-0086

E-mail: sou@h-n-a-f.com

新城「田ノ島」発。谷を渡るアートの風。

現代美術展 ART田ノ島39 アーティスト



味岡伸太郎

1949 愛知県豊橋市生まれ。1990 現代日本美術展。以後、ギャラリー・サンセリテ：豊橋、双ギャラリー：東京、他、ギャラリーでの個展を中心に発表。1997 広島市現代美術館、1998 練馬区立美術館、2009 上海多倫現代美術館などで平面作品発表。1990 山梨県上九一色村。1991 名古屋電気文化会館。1992 稲沢市美術館。2000 刈谷市美術館。2003 愛知こどもの国。2012 豊橋市美術博物館などで土や石・枝を使用したインスタレーション。豊橋市美術博物館他収蔵。



伊藤 誠

1955 愛知県生まれ。1996 文化庁派遣芸術家在外研修(アイルランド)。現在 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 教授。[個展] 1989,91,94,99,02,04,07,11島田画廊:東京。1993,98,03,06,09村松画廊:東京。1992,95,98,99,02双ギャラリー:東京 他。[グループ展] 1992 現代美術への視点・形象のはざまに(東京国立近代美術館・東京、国立国際美術館・大阪)。1996 まじめなサーカス/多田正美+伊藤誠(双ギャラリー:東京)。2011 所沢ビエンナーレ美術展。2011「引込線」(埼玉) 他。[収蔵]東京都近代美術館 他。



江幡三香

1964 東京に生まれる。KOBATAKE工房にて彫刻を学ぶ。東京、千葉などを中心に個展、グループ展多数。オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカ、ポリビアで展覧会、シンポジウム、アーティスト・イン・レジデンスなどを行う。2001 天竜市立秋野不矩美術館、2009伊勢現代美術館への視点・形象のはざまに(東京国立近代美術館・東京、国立国際美術館・大阪)で企画展。1999 The Pollock-Krasner Foundation受賞(アメリカ)



加藤マンヤ

1962 生まれ。愛知教育大学大学院在籍中より作家活動を始め、その後、愛知県からの助成を得て1997 渡英。英国国立ノッティンガム・トレント大学大学院修了。帰国後の制作活動に対し、2008年に石田財団芸術奨励賞を受賞。刈谷市美術館やマサヨシスズキギャラリー(岡崎)での個展およびアメリカ・イギリス・イタリア等海外でのグループ展、国内では「現代美術のポジション」「あいちアート」の森」などのグループ展に多数参加。



川邊耕一

1963 和歌山県生まれ。1988 筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻修了。1989 西ドイツ・カールスルーエ美術アカデミー留学。1997-98 ホルベインスカラシッパ奨学生。2002-03 文化庁派遣芸術家在外研修U.S.A.。2008 和歌山県「きのくに芸術新人賞」受賞。2010大桑文化奨励賞受賞[グループ展]第11回現代日本絵画展。第17回エン・バ美術コンクール。第13回現代日本絵画展。第13回吉原治良賞美術コンクール展等で受賞。CAF.N (Contemporary Art Festival NEBULA)。第17回日本国際美術展。第24回現代日本美術展(他25・27・28・29回)。



国島征二

1937 愛知県生まれ。グランドラビス美術館、タイ国立美術館、ハワイ現代美術館、プレスノ美術館で個展。作品収蔵。他日本、アメリカ、オーストラリア、タイ、ドイツ、韓国、スペイン、オランダで個展・グループ展・ラグナビーナ美術館、クロッカー美術館、岡崎市美術博物館、碧南市藤井達吉現代美術館などに作品収蔵。サンフランシスコ国際空港、バンクオブアメリカ、ユニオンバンク、トヨタ自動車K.K、東山公園など世界各地に彫刻制作設置。



多田正美

1953 神奈川県生まれ。1974 GAP結成活動。1975 小杉武久音楽教場参加。1987 多田正美展。樹との対話365日(1年毎日同じ樹を365枚撮影)。1996「真面目なサーカス」：双ギャラリー。1998 森村泰昌と河内音頭創作ライブ:京都国立近代美術館。1999「時代の体温」:世田谷美術館、文化庁在外研修員としてオランダ1年滞在。2006「Art Full Nepal」写真展 LP「GAP」「E・B・S」。CD「空」「存」「音」等多数。



松岡 徹

1992 名古屋芸術大学美術学部絵画科版画コース研究生修了。主な個展に、2003「どこか、おかしい。」佐久島:愛知。2005 Quiose Gallery:スペイン。2006「カリヤファンタジー計画」刈谷市美術館。2007 Yoshiko Matsumoto Gallery:オランダ。2008 Murata & Friends:ドイツ。2011「キオクノ山鬼集記」奈良現代美術館:岡山など多数。愛知県出身。



松崎昭彦

千葉に生まれる。東京造形大学彫刻科卒業。東京造形大学研究室終了。[個展] ギャラリー手、かねこ・あーとG1、ときわ画廊、かねこ・あーとギャラリー、双ギャラリー、その他多数。[グループ展] 第一回高村光太郎大賞展:彫刻の森美術館。展出された7景展:東京都美術館。概念と空間展:千葉県立美術館。同時代の発話展:埼玉県立美術館。笑展:真木画廊。EXHIBITION:代々木アートギャラリー。二人展:青年美術館(ソウル)。石神の丘美術館。(異重の間) 双ギャラリー。



松下誠子

1994 個展 ギャラリー日鉦:東京。1996 アートハウス、エンハロット美術館:イスラエル。1998 ギャラリーアーティクル:ケルン。1999 Stadtische Kunstsammlungエシユンバイラー。2000 One Minute Festival 動画:サンパウロ。2001 個展ギャラリー・モニカプレス:ドイツ2002 個展Art Positions:マルセイユ。2004個展:双ギャラリー。2006 Art Full展:小金井市立はげの森美術館。



丸山雅秋

1952 長野県安曇野市出身。東京造形大学彫刻科卒。佐藤忠良に師事。イタリア国立・ブレラ美術アカデミー彫刻科卒、卒業論文「能」渡独。1996 帰国。ドイツ・イタリア・ハンガリー・韓国・中国でグループ展・個展・国際アート・フェアに出展。[コレクション] 神奈川県立近代美術館・世田谷美術館・釜山現代美術館・Fellbach市(ドイツ)・安曇野市豊科博物館。[個人コレクション] ドイツ・イタリア・日本・USA・韓国・ハンガリー・オーストラリア・フランス。



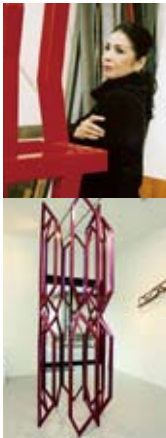
武藤博美

1967 静岡県生まれ。多摩美術大学大学院修了。第56回新制作展新作家賞(第57・58・59回新作家賞、第60回会員推挙、以後毎回出品)。第14回花の美術大賞展・スポンサー賞。上海春季芸術サロン・優秀青年芸術家賞。第25回損保ジャパン美術財団選抜奨励展。Asia Top Gallery Hotel Art Far Hong Kong 2012。個展4回。グループ展多数。現在日本美術家連盟会員・新制作協会絵画部会員



百瀬 寿

1977「第2回世界版画展」エディション買上賞受賞・サンフランシスコ近代美術館:U.S.A.。1988「ベルリンー東京現代美術交流展」として個展・ギャラリー・ベルスロイスデン:ドイツ。1996「第3回高知国際版画トリエンナーレ展」大賞受賞・いの町の博物館:高知県。1999 スコットランド王立美術館にて個展:U.K.。2007 東京ミッドタウンに依頼制作:六本木。2010 岩手県立美術館にて個展:盛岡。



山田恵子

東京に生まれる。東京造形大学絵画科卒業。[個展]かねこ・あーとギャラリー、ときわ画廊、双ギャラリー、かわさきIBM市民文化ギャラリー、SOHGALLERY K3.Steps Gallery等多数。[グループ展] 第13回日本国際美術展:東京都美術館。第1回神奈川アート・ニュアル。二人展:青年美術館(ソウル)。第12回日本彫刻展:宇都市。第24回今日の作家展:横浜市民ギャラリー。第9回ハラ・アニュアル:原美術館。抽象彫刻の旗手たち:福島県立美術館。名古屋コンテンポラリー・アートフェア。かわさき現代彫刻展2004。他多数参加。



山本一樹

1957 東京都生まれ。1987 東京藝術大学大学院美術研究科 博士後期課程鍛金専攻 満期退学。[最近の活動] 個展:K・PLANET gallery (渋谷)、ギャラリー 58 (銀座)、浜松市美術館(浜松)など。グループ展:「日韓現代美術展」(宇都宮: 栃木、韓国: 慶州)、「ドローイングをめぐって」(茨城県つくば美術館)、「平城遷都1300年記念現代メタルアート展」(奈良) など。現在 静岡文化芸術大学デザイン学部生産造形学科 教授。



渡辺泰幸

1969 岐阜県美濃加茂市生まれ。[個展] 1999 ギャラリー・サンセリテ(豊橋)。2001 みのかも文化の森(岐阜県美濃加茂市)。2005 世界のタイル博物館(愛知県常滑市)。[グループ展] 1994 サントリー美術館大賞展94' 挑むかたち(サントリー美術館)。2003 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006 2009 (新潟県十日町市)。2004 ミノ・セラミック・ナウ(岐阜県現代陶芸美術館)。2006 美術館ワンダーランド(安曇野市豊科近代美術館)。2008 アーツ・チャレンジ(愛知県陶磁資料館)。土・大地のちから(群馬県立館林美術館)

季刊
2012

秋

現代美術展
ART田ノ島39
誌上展

2012年8月4日(土)~12日(日) / 会場 愛知県新城市豊岡字田ノ島39番地



現場主義とリージョナリズム(地域主義)
なぜ「ART田ノ島39」なのか。

今

回の企画展は「愛知県新城市湯谷温泉近郊の河岸『田ノ島39番地』。そこにそって流れる字連川の川底は岩を敷き詰めたように見え、板敷川と呼ばれる。徒歩五分の下流には日本百名湯に選ばれた湯谷温泉があり、天竜奥三河国定公園の一面を占める、豊かな自然の中に、双ギヤラリー(東京・小金井)、アートフォルム田町サロン(浜松)、ギャラリースンセリテ(豊橋)で発表するアーティストに、遠州・三河を活動の拠点とするアーティストが加わり、自然と現代美術の新たな関係を提示する。」と案内にある。

今

では「前衛」とかという言葉は政治の世界では死語になったが、一九六〇年代のアンダーグラウンドの世界では、未だ生きていた。通称アングラである。実験的・前衛的な映画、演劇、またはその劇場という普通名詞であるが、美術の世界でも活動は衰えがなかった。六〇年代の読売アンデパンダン展からデビューした有名な作家として荒川修作、工藤哲巳、三木富雄、河原温、高松次郎がいる



味岡伸太郎 支点と質量による「水平考」 鉄・自然石



伊藤誠 BOAT:L-11 アルミ・銅・ステンレス・プラスチック



江幡三香 KARA-KARA 檜・鉄



加藤マンヤ 無題 木・アルミニウム



川邊耕一 Floating175-80 アクリル・オイルスティック・油彩／キャンバス



国島征二 都市の表皮 アルミニウム合金・鉛・自然石



丸山雅秋 存在＝関係 ブロンズ



松岡徹 獅子玉塚 コンクリート・顔料

に痛切な危機意識を呼び起こした。都市化によりふるさとを追われ共同体をこわされた何百万という民衆は、砂漠のような都会の孤独のなかで懐郷の念を深めた。他方、続発する公害問題によつて近代化論の迷夢からめざめた住民は、その運動の原理をまさに消滅しようとしてゐる常民世界に求めようとしたのである。そのとき柳田の拓いてきた学問がこうした現代への救済能力をとまえてゐるかのやうに幻想され、一九七〇年代に入つて、空前の柳田ブームをもたらしたが、忘れてはなるまい。彼の民俗学には『即効性はない』ということ。そう柳田自身が戦後なんでもことわつてゐた。柳田ブームは、頭打ちしたONJN大国の成長の代償として現代思想の病理を根底に「ふるさと」発見から日本回帰の様相を示しつつ今なお広く継続してゐる。」(柳田國男の常民文化論・色川大吉) 色川氏の言う地域主義はグローバルなアメリカの文化価値に対するリージョナリズム(地域主義)の側面として、今まさに時代を切り開くキーワードとして存在している。柳田は民衆に対して「沢山の無形の記録を保管している人々に對して、常に教えを受ける者の態度は失わず、正に文字通りの同情

が、共通してゐるのは「反芸術」という言葉である。この「反芸術」は理念こそあれ、時代の趨勢には勝てなかつた。それは「前衛」という理念の崩壊でもあつた。それは一九六〇年代に入つてからのことである。その時期の安保闘争や公害闘争を通して前衛党の権威やプロレタリア神話が瓦解し近代主義の罪業が暴かれる。人間の本质とは知であるとし、他の要素を除外して人間の知性のみ重点を置いて人間を理解しようとする主知主義が主流を占めていた事にもよる。そのことは自らを知識人として捉えることによる大衆蔑視の裏返しでもあつた。として現代美術は「反芸術」というアンチカテゴリ―批判の中で「美術文脈」という村社会を形成していく。それは海外からの輸入美術の焼き直しと再生産という資本主義的繰り返しであつた。その事は、現代美術は難解である事を理由に大衆蔑視として語られる事にも繋がって行つた。社会に対して何の発言力も中身もない美術の成立である。その六〇年代後半、吉本隆明の『大衆の原像』と柳田國男の『常民の思想』は先進的な若者を魅了して止まなかつた。「それにくわえて、高度経済成長による日本の国土と伝統文化の破壊は、人びと



松崎昭彦 跡 17-2 錫



松下誠子 word201210(上) word201210E(下) 粘土・白セメント・松煙



多田正美 星光軌跡 100906.183723 写真・ジュルメディウム



山本一樹 Which way did the Wind Blow, and Where did People Go?
真鍮 緑青仕上げ



渡辺泰幸 風の音 陶



百瀬寿 Blue, Blue and Blue 複合ガラス



山田恵子 彩の〈成空〉MⅡ 彩の〈成空〉MⅢ 鉄・ポリウレタン樹脂塗装



武藤博美 ライフ(命)／ディナー(ご馳走)／宇宙 ミクストメディア

を以って之に臨むこと(青年と学問、柳田國男)と郷土研究の要件で述べている。色川氏はこの柳田の言葉を知識人の思い上がりの戒めとして紹介している。当然では在るが現代美術を最上のものとして思い描く人のあり様も当然の如く、思い上がりに過ぎない。

現 代美術と銘打って行われる企画展の多くは実は地域主義(リージョナル)や現場主義から逸脱しているように思える。アートが現場から逸脱し、地域から離反してしまっていることが、現代のアートの弱さに繋がっている。今回の企画展を組織した味岡伸太郎さんは、一九七〇年代から現場主義を象徴する作家だった。広島や東京でも地域での土や石、植物などの特色を生かしたインスタレーションを行ってきた。だから今回の企画展も地域に対する思い入れも伺える。その思想を踏まえないと、この展覧会の良さが見えてこない。味岡さんは以前、著作の中で、長野県の売木お練り祭りについて『練る』とはゆっくりと歩くの意。祭礼は本宮から御旅所に神が渡ることに本質がある。その神幸に際し、華やかな行列を仕立てて歩くことがお練りなのだ。』(『三遠南信祭祀紀行』2004年)と書っている。

祭りの約半数が観客を想定し見せる祭礼へと変質していく。以前の『地質調査』と題する一連の仕事が記憶の手がかりになる風物としての土地の物語を土の色と名付けられた地名を頼りに解き明かす物語としてあつた。今回のこの地『田ノ島36番地』がゆっくりと新たなアートの物語として語られるように祈りたい。またこの場が彼のアトリエである事も幸いしている。「支点と質量による『水平考』』というインスタレーション作品は、この現場としての会場と並行して走る飯田線と、背景として迫る鳳来の山も取り込んで成立しているような絶景に見えた。

八 月四日(土)午後一時より行われたオープニングパーティーでは、十六名の作家の作品が「湯谷の家」と雑木林に展示されていた。サウンドパフォーマンスの多田正美さんの音楽が雑木林の中を涼しげな風となつて響いていた。

鈴木敏春(美術批評)

参加アーティスト／味岡伸太郎、伊藤誠、江幡三香、加藤マンヤ、川邊耕一、国島征二、多田正美、松岡徹、松崎昭彦、松下誠子、丸山雅秋、武藤博美、百瀬寿、山田恵子、山本一樹、渡辺泰幸(50音順)